

会 議 議 事 録

| | |
|-----------|---|
| 1 会議名 | 令和5年度第2回食育推進会議 |
| 2 開催日時 | 令和6年2月5日（月曜日） 午後1時30分から午後3時00分 |
| 3 開催場所 | さいわいプラザ 6階 大会議室 |
| 4 出席者名 | <p>（食育推進会議委員）</p> <p>久保田会長 熊倉副会長 鴨居委員 北山委員 佐藤委員 高田委員 中山委員 西本委員 野村委員 福居委員 松井委員 村山委員（アドバイザー）</p> <p>（関係課）</p> <p>大平係長（市民協働課） 中村係長（農水産政策課） 小林係長（環境業務課） 岩淵主査（学務課） 鈴木指導主事（学校教育課） 横山係長（子ども・子育て課） 金子主任（保育課）</p> <p>（事務局）</p> <p>水島福祉保健部長 五百川健康増進課長 曾根健康増進課長補佐 田中係長 伊藤主任 坪谷主任 石原会計年度任用職員 井口係長 久保係長 荒木会計年度任用職員</p> |
| 5 欠席者名 | 猪貝委員 難波委員 野田委員 |
| 6 議題 | <p>（1）第4次計画策定のための食育推進連絡会議での検討内容の反映について</p> <p>（2）第4次長岡市食育推進計画の具体的施策について</p> |
| 7 審議結果の概要 | <p>（1）について 資料1、2にて説明</p> <p>（2）について 資料3にて説明</p> <p>各議題ごとに意見を伺った。 計画は承認された。</p> |

| 8 審議の内容 | |
|---------|--|
| 司会 | ○開会 |
| 進行・会長 | ○議事 議事(1)について事務局から説明願う。 |
| 事務局 | (事務局説明) |
| 進行・会長 | 今の説明について意見等はあるか。 議題(1)について議事終了。 続いて、議事(2)について事務局から説明願う。 |
| 事務局 | (事務局説明) |
| 進行・会長 | 今の説明について意見等はあるか。 また事務局の説明にあった若い世代へのアプローチや情報発信の方法などについてもアドバイスはあるか。 |
| 委員 | 若い世代への対策ということだが、その前に、ごはんを食べていないなどの現状はどうなっているのか。 |
| 事務局 | 計画書18～19ページのグラフから、20代～50代の特に男性が朝食の欠食率が多い傾向があった。朝食の内容を示した19ページのグラフでは、主食を食べている割合はどの世代でも90%以上であるが、野菜などの副菜を食べている割合は、30%程度と少ない傾向がある。この結果から、若い世代のバランスの取れた食事ができていないのではないかと考察した。 |
| 委員 | 朝ごはんを食べていない理由についてはどうか。 |
| 事務局 | 当市の健康増進計画(ながおかヘルシープラン21)の策定部会では、共働きで両親も時間が無く、3歳児の寝る時間が遅い時間になっていることがわかった。朝、早く起きることができないことが生活全般に影響し、共働きによる遅めの生活が影響してきているのではないかという意見があった。 |
| 委員 | 20代、30代についてはどうか。 |

| | |
|-------|--|
| 事務局 | <p>ヘルシープラン21の策定会議では、ライフスタイルの変化や親が共働きということがこどもの欠食、孤食に繋がっているのではないかと推測された。問題は20代、30代の親の生活習慣である。こどもの頃の食生活はその後の食育にとって大事な部分であり、正しい食習慣を身につけることは、今回の計画でも力を入れる部分である。</p> <p>こどもの欠食や両親がいない中での孤食が、高校、大学または就職した後まで継続してしまうと、欠食や孤食が習慣化され、栄養が二の次となる。そのような生活を続けていくと、30代後半から40代で自身の健康に影響が出て健康診断の結果に表れてくる。</p> <p>40代からの壮年期になると、糖尿病や脳血管疾患などの生活習慣病につながってくる。</p> <p>20代、30代の健康な生活習慣の形成の要因は、乳幼児から学童期での正しい、バランスの取れた食事がポイントになってくると認識している。</p> |
| 進行・会長 | <p>事務局の説明の中で、若い世代に向けた発信方法についてとあったが、詳しく聞かせてほしい。</p> |
| 事務局 | <p>令和4年度の食育推進会議の記録に、「情報が正しく伝わっていないために、体重の痩せの傾向があるのではないか」というご意見をいただいていた。</p> <p>これを受け、今年度の推進連絡会議で、情報を正しく伝えるためにどうすれば良いか話し合い、紙で見る若者はあまりいないのではないかということから、HPであったり、SNSでの発信を考えた。</p> <p>〇〇委員のおっしゃるとおり、まだまだ実践につながらない要因が見えていないところも大部分ある。これが、適切な情報が受け取れていないからなのか、本当に時間がないからなのかは、今後、関係機関の方々からもご意見いただきながら進めてまいりたい。</p> |
| 委員 | <p>先ほどの〇〇委員の話を補足するが、集団の資質を高めるために効果的なのは一番悪いところを持ち上げるのが一番費用対効果が高い。その悪いところは、20代、30代の朝食を食べない世代。そこに注目をする。</p> <p>委員が指摘されていたが、今回の計画は、そこを補足するための部分が足りないのではないかという印象を受ける。それは今、情報が足りないから、さらに情報を集めて、次回の計画でがんばるということでよろしいか。</p> |
| 事務局 | <p>計画の表現で書き足りない部分は、具体的な取組の課題として捉えてい</p> |

| | |
|-------|--|
| 進行・会長 | <p>るので、計画期間5年間の進捗管理の中で、推進連絡会議や推進会議等で、しっかりと検討していきたい。</p> <p>小さいころからの教育が期待される。</p> <p>このほかに質問等はあるか。</p> |
| 委員 | <p>健康増進課で、みんなの食育講座のメンズキッチンをされていた。参加すると、300円分のながおかペイが贈与されるとのこと。</p> <p>参加するにあたって、自分の健康のためとか、家族のために、簡単にできる、というワードはよくあるが、電子マネーなどの付加価値があると、やってみようかなという気にもなると思う。</p> <p>ちなみに、そのメンズキッチンの講座にはどのくらい参加されたか、ながおかペイの効果はあったのか。</p> |
| 事務局 | <p>12名参加された。ながおかペイ申請者はいなかった。</p> <p>※会議後、再度確認したところ、5名が希望していた。</p> |
| 委員 | <p>今までにない、とてもいい方法だと思う。</p> <p>今後も予算の効く範囲でお願いしたい。</p> |
| 事務局 | <p>食育計画のスタートを新たにすることで、壮年期の生活習慣病が増えているという状況が課題である。目的意識を向上させるために、スマホの健康アプリで「グッピーヘルスケア」を導入している。自分も使っているが、毎日の目標を達成することを意識している。</p> <p>〇〇委員のおっしゃるとおり、ながおかペイと連動してポイント還元できる仕組みを検討している状況である。一つの課題として頂戴させていただきます。</p> |
| 委員 | <p>郷土料理というと、例えば秋田県のきりたんぼ鍋は塩分が高い。そういうものを出すと、子どもが濃い味が好きになってしまうのではないか。</p> |
| 委員 | <p>〇〇委員のご意見に対して、食推の立場でお話させてもらいたい。</p> <p>以前の煮しめとか、のっぺとか、長岡のものは結構味が濃かったと思うが、最近は食推で料理教室を開いても、うまみを感じられるくらいの調味料にして、塩分を控えたりしている。塩分をたくさんとらなくても郷土料理のおいしさを味わえるものを、学校給食も食推で行う郷土料理教室でも</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>レシピを工夫しているので、郷土料理を食べたから必ずしも塩分摂りすぎになるというわけではない。</p> <p>企業さんとのコラボで、ながおか減塩うまみランチの商品化の話があったが、地域の食推会議で、地域の健康課題について話し合ったところ、高齢者や一人暮らしの方は、スーパーのお惣菜やお弁当を買って食べている人が多いのではないかという話が出た。</p> <p>なので、それを買って食べると、減塩で野菜もたくさん摂れる、というお惣菜やお弁当を企業さんとのコラボで増やしていただいて、気づかないうちに、食べて健康になれるような取組ができれば良いと思う。一人暮らしの方、高齢者や若者が、料理を作るのは大変だけど、買って来た組み合わせで健康になれるような例をポスターにして貼るなどの取組があるとよい。</p> <p>また、商品にはパッケージの裏面に塩分やカロリーが書いてある。お弁当やお惣菜をその場でひっくり返して見ることはなかなかできないので、表面のどこかに表示できたら、選ぶときに計算できると思うので、そんな取組をしていただくと、塩分摂りすぎやカロリー摂りすぎを予防することができ、自然と食環境が整ってくる仕組みができるといいと思う。</p> |
| 委員 | <p>野菜のお惣菜は、炭水化物や揚げ物に比べ奥や端の方にあって、お客さんが素通りして手に取らないように感じる。野菜のお惣菜で地場産の野菜を使っているものはあまり見ない。地場産野菜は素材でコーナー化されている。素材のままだと、どうやったら美味しく食べられるかわからない人もいる。地場産野菜を使ったお惣菜を売ることで、地場産野菜自体を買いたいなと思ってくれるのではないかな。</p> |
| 委員 | <p>家族のために、意識して野菜を使った料理を作りたいと思うし、なるべくお惣菜は使わないようにと思っているが、お惣菜で塩分が薄いものや地場産を使ったものがあればうれしい。</p> <p>加えて、地場産野菜や山菜などは調理の方法がわからない。気軽に聞ける存在もいないため、SNSでレシピ動画など情報発信があると見てみたい。若者は興味がないのではなく、調べないか調べても出てこない。地域の情報が口頭伝承みたいなものが多く、若者に届かない。近所のお年寄りに声をかけるには勇気が出ないという部分を、行政に間に入ってもらい、web上に載せてほしいと思う。</p> |
| 委員 | <p>減塩惣菜や地場産野菜の売り場に、減塩の効果や地場産野菜の調理</p> |

| | |
|-------------|--|
| 委員 | <p>レシピが見られるWebサイトや動画のQRコードが付いているポスターを貼り出し、スマートフォンで簡単に情報を得られるようにしてはどうか。病院の待合室では、若い方がQRコードを撮って健康情報を取得していることがよく見受けられる。スーパーの売り場でもただ売るだけではなく、その効果や調理方法も同時に発信出来れば、減塩惣菜や地場産野菜に更に興味を持ってもらえるのではないかと。それが身近なスマートフォンからであれば簡単便利であり、気軽さも相まって働きかけに効果があるのではないかと。持ち帰ってゆっくり見ることができるという点でも良いと思う。</p> <p>環境に配慮した食の循環の推進について。</p> <p>長岡市の廃棄物減量化会議にも出席している。長岡市では、一人当たりの生ごみ排出量が国や県よりも少ないとのこと。まずは、「目指せ！ごみ減量化県内一」、ひいては全国一位というように目標を掲げて、ごみ分別の意識の高さを市民の皆さんに知ってもらい、さらに推進するような取組をすることで食品ロスを減らしていけるのではないかと。思う。</p> <p>手つかずの食品廃棄についても、声掛けをして意識を深め、冷蔵庫の中で忘れない。給食も残さないというように頑張っていることを褒めて、やる気を出させるような取組があってもいいと思う。</p> |
| 委員 | <p>生ごみが出ない生活をしてほしい、ということであれば、朝はパンを食べて、夜はコンビニのお弁当を食べたら、プラごみと燃えるゴミしか出ない。生ごみが出る生活の方が健康的にはいいと思うのですが。生ごみが少ないことが良いというのは少々、危険な考え方ではないかと感じる。</p> |
| 委員 環境業務課 | <p>長岡市の生ゴミの割合は20%くらいで、そのうちの47%が手つかずの食品廃棄で捨てられているところが問題だと思う。手つかず食品ゴミを出さないと読み取っている。長岡市が料理をしない人が少ない訳ではない。コーンポストでたい肥にして循環型でやっている人もいる。</p> <p>計画書(案)の8ページ、食品ロス削減についても掲載されているが、都会も田舎も同じ条件と考えて、年間一人当たりの家庭系食品ロスの量が長岡市では少ないのではないかと。思う。</p> <p>生ゴミを分別して収集しているのは、県内・全国的にも少ない。長岡市では生ごみを分別して収集し、ガス化して発電に使っている。よって、長岡市が生ゴミが少ないかどうかは、比較がしにくい。</p> |

| | |
|--------------|--|
| <p>進行・会長</p> | <p>食品ロスを調査したところ、手つかず食品ゴミが混ざっていた。こういったものをなくしていけば、食品ロスも削減できるということで、環境部では現在、計画を作っている。</p> <p>生ゴミや、燃えるゴミの中にどれくらい食品ロスが入っているか調査したところ、推計した数値が、国や県の出している数値よりも長岡の数値は非常に少なかった。長岡市民は、分別も食品ロスも意識が高いと考えている。</p> <p>他市に住む家族にゴミの分別を何回教えてもなかなか覚えてくれない。〇〇委員のおっしゃるように、長岡市を誇りに思った方が私はいいと感じた。</p> <p>ここで、第4次食育推進計画案について、承認される方は拍手願う。 (拍手)</p> <p>拍手多数ということで、こちらの計画は承認された。</p> <p>それでは、委員の皆様から感想を頂戴したい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>いち主婦として、子育てをする身として、市政だよりを見て委員に応募させていただいた。ここで話し合った内容が、私の日常生活にも届くと良いなと思う。私も、周りに広げられるような小さな活動からしたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>乳幼児では朝食を90%以上食べているとの結果だったが、中身を見ると主食・主菜・副菜がそろった食事をしている割合は少なかった。結局、家庭が一番大切なので、お母さま方にこれからわが子が、離乳食から始まって長い食生活の間に啓発活動をしていただき、健全な子どもたちが育つ一助になってくれたら良いと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>主食・主菜・副菜を実践している人だけでなく、知っている人の割合を指標として組み込んでいただいてありがたい。今後の評価がしやすくなる。</p> |
| <p>委員</p> | <p>資料3の中に子どもたちや若い世代に対しての具体的な取組がたくさんあり、大人になって大事なものが身につくではないかと思う。若い世代の人が食いつくようなイベントや企画や講座ができればいいと思うし、食推としてお手伝いしたい。</p> <p>今回の計画でながおか減塩うまみランチが商品化されるのを楽しみにしている。データを見ると、食育に興味のある人は増えていいことだと</p> |

委員

思う。ただ、実際に気を付けている人はあまり増えていないので、食育のイベントを活発にやって参加者を増やすのが我々の仕事かなと思う。ただ闇雲にイベントをやっても参加される方は毎回同じ人が来たりするので、何かうまみがあると来てもらいやすいのではないか。例えば、食育のイベントに参加した人は、健康診断が無料になるなど。現在も500円であるが、無料だとみんな来るのではないか。検討していただきたい。

歯科医師会では、歯と口の健康週間と食育月間に合わせ、6月に長岡市と共に歯と食のイベントを開催している。歯科医師会は来場者にイベントや啓発内容に興味を持ってもらうために、口腔ケア用品の配布を行い参加者を増やす方策を立てている。「食」のほうも、食育推進計画の様々な取組を、何かインセンティブを持たせてもっとアピールしてはどうか。9月にも健康イベントに参加しているが、他にも多くの団体が参加し、相乗効果で賑わう。歯と食のイベントも、次年度は食の講演会は無いにしても、取組をもっとアピールできるようなブースを設けてはどうか。お互いにもっと相乗効果になるよう検討していきたい。

ある会社が、歯科保健の取組の一環で「昼食後に歯みがきをする」というイベントを行った。インセンティブとして歯ブラシや歯間ブラシの歯みがきセットを配り、1か月間昼食後に歯みがきをしてもらい、周囲にも食後の歯みがきを勧めるといったイベント。その活動後のアンケート結果で、歯みがきの意識が向上するだけでなく、他の生活習慣にも良い変化が見られた。「体験したらその良さわかるよ作戦」である。朝食の摂取にしても、そのようなイベントを考え、体験することによる意識や行動の向上に繋げてみてはどうかと思う。

委員

まず、のり酢和えが商品化されたことが非常に良いと思った。学校の来客があると、皆さんが喜んで給食を食べていかれる。そういったものがスーパーに並ぶということが良いと思う。こどもたちにとっても、減塩うまみランチは給食のなかで当たり前のものとなっている。こどもたちの生活とスーパーがつながっているのは、とても大事だと思った。

郷土料理の作り方については、学校では給食だよりの裏にレシピを載せていて保護者に配っている。興味のある方は作っている。

長岡市三島郡学校給食協議会の役員をやっているが、その研修で、給食の指導で「がんばれ」「残さず食べよう」というが、それをやめませんかという講師の話があった。給食は頑張るものではない、という視点。最近

委員

は、いろいろな理由で食べられないお子さんがいる。そういうお子さんにも頑張らせることになる。以前、食育推進評価アンケートで、食べることが楽しくないという子どもたちがいた。小学校の給食では、楽しく食べることを大事にしていけると良いのかと思う。

食品ロスで、給食を残さないといわれても、そういう状況でない場合もあるということを伝えたい。

最後に、栄養職員部会が郷土料理や地場産食材の授業を行っている。大口レンコンの動画を作って、子どもたちに見せて、その日の給食も大口レンコンのメニューだった。そういうことが素晴らしい。やはり、動画は効果的でリーフレットより今の若者は動画やSNSの方が合うのではないかと感じた。

中学生の現状としては、食に関しての知識は明らかに昔よりもついている。家庭科の授業はもちろんのこと、給食も素晴らしい。今、給食週間で、都道府県の食材を使った各地の郷土料理を提供し、昼の放送で紹介したりしている。総合学習でも、栃尾で油揚げを使った新しいメニューを給食に出してもらったりしている。

中学生は食に興味を持っていて、知識もあるが、先ほど話があったように、日頃の食生活に反映されるかは別。知識はあっても、実践できるかは、親が作ってくれるかどうか、自分ではどうすることもできない部分もある。知識ではわかっているけれど、やっぱり食べたいものが食べたい。部活をやっている子は量が食べたい。肉が食べたい。それをどうやって自分事にしていくか。中学生に脅しのように、今そんな食生活をしていると、将来困るよと言ってもピンとこない。脅しは食育ではない。やっぱり食事は楽しくと考えると、難しい。

食品ロスを受けて、先日給食でハーゲンダッツのアイスクリームが出た。欠席者分はじゃんけんをするが、残量報告を見ると3つ残っていた。聞くと、うちのクラスはじゃんけんをしないとのこと。これが、体のことを考えているのであれば食育かなと思う。

朝食に関しては、私見としてはだいぶ食べるようになっているが、これを100%にすることは不可能。様々な理由があり、家庭の事情も違うだろうし、もともと生活リズムが悪くて起きることができない。学校に来ることができない子もいる。その子に朝食というのは無理な話。昼前に起きる子は朝食は食べられない。そんな事情の子も抱えて、これだけ朝食を食べているというのは、それでよしとはしないが、みなさんが食育や食品ロス削減を一生懸命やっているのがわかる。自分事として考えられるようにした

| | |
|-------|--|
| 委員 | <p>いと思う。</p> <p>この会議でお話を聞いて、乳幼児を預かる私たちがやるべきこと、食育の大切さをこどもたちに伝えたい。今年もたくさん野菜を作ったが、苦手な野菜も自分が作ったものだと食べられるとか、自分たちがやれることを日々一生懸命やるのが大事だと改めて思った。〇〇委員のいうとおり、食事は頑張って食べるものではないと思う。先生がたに「給食の時間は楽しいものにしてください」と伝えている。信頼している先生がたと、楽しく会話しながら食べるというのが大事な事かなと改めて思った。</p> <p>食育は奥が深く、私は保育士になってから勉強しているが、なかなか正解が見えない。今後も勉強していきたい。</p> |
| 委員 | <p>以前は、長岡びったり 3・1・2 弁当の販売を進めていたが、長岡市の人は、お米は自分で炊くから、お惣菜が良い。今年から始めた商品化ではのり酢和えと鶏肉の主菜が販売されていた。6月だけでなく今も大口レンコンのごまネーズ和えと、もともとあったレンコンのサラダが2種類販売されている。以前はポップの掲示もあった。給食は家ではなかなか食べられない。特に野菜は給食で大勢の仲間と一緒に食べることや先生方の声掛けで食べられるということもある。</p> <p>高齢者の食事は、野菜をたくさん食べる人とほとんど食べない人がいる。一人暮らしでお惣菜やお弁当を買って食べる方もいるので、そういう人が安心してちょうどよい量や何人分の目安量かがわかるように表示を出せる環境整備がもっと進めば良いと思う。</p> <p>子どもびったり 3・1・2 弁当作品展は今後どうなるのか。コンクールはなくなってしまうのか。</p> <p>また、栄養士会の方でも、全世代に関わる取組を考えていきたい。</p> |
| 進行・会長 | <p>健康増進課がコミュニティセンターを毎年訪問してくれる。地域の健康課題を教えてくれ、その課題に沿った講座を組んでいる。私自身はコミセンに勤めてから、自分の健康に関心を持つようになり、いろいろな食品を食べるようになった。講座で健康チェックを行うと良い数値が出ているのは、コミセンに勤めているいろいろな講座に参加させてもらっているからだと思う。</p> <p>高齢者は時間にゆとりがあると思う。朝食を食べる時間も作る時間もあるし、栄養面に関心も高いと思う。そういったところが広がるといいなと思っている。</p> |

| | |
|---------------|--|
| <p>アドバイザー</p> | <p>それでは、アドバイザーから全体をとおして講評願う。</p> <p>計画全体としては、いろいろな意見を踏まえて改訂していただき良くまとまっていると感じた。難しいところが長岡らしさをどう取り入れるかということだったが、大きな2本の基本方針に、長岡らしさを大きく入れ改められている。</p> <p>重点層として、どこにフォーカスを当てていくかというところで、若い世代・働く世代ということを取り上げて議論した。</p> <p>一点目として、人間側の行動を変えるということは基本的に非常に難しい。さらに正解がないということ。やり方をどうするかを念頭において進めていく必要がある。行動経済学というお話もあったが、理論的なところも踏まえると、対象に合わせたアプローチが必要になる。関心の高い対象の場合は、情報提供や知識の提供、あるいはスキルの提供、教育をしていくことで、行動変容につながる可能性がある。しかし、関心が薄い対象の場合は、ポイントなどのメリット感を出すことが、緊急的には効果があるといわれている。難しければ、インセンティブを付与する。いずれにしても正解がないので、やってみて効果検証をしていくしかない。</p> <p>二点目は、人の行動ではなく環境を変えるということ。これは、先ほど委員の発言の中に「自然と健康になれる環境づくり」というワードがあったが、まさにここが二本目の柱だと思う。これは完全にポピュレーションアプローチなので、ターゲットを絞る場合もあるが、食品販売企業で何を売っていくか、売り場はどうするか、そういった環境づくりはもう一つのポイントだと思う。</p> <p>長岡市がすごいなと思ったのは、学校給食の人気メニューを販売するという事は、他市ではないと思うので、特徴として素晴らしい。特に人気メニューというところが買ってみたくなると思う。</p> <p>農水産政策課が主軸になって、JAと学校を繋ぐような取組をされている。学校給食に地場産作物を導入しやすくする仕組みづくりをされているとのこと。地場産作物を増やしたいが、給食でどうしていったらいいんだろうという問題を抱える自治体がある中で、体制づくりをされているということに関心した。</p> <p>惣菜コーナーの場所や、表示の話、健康情報が動画につながるような売り場との連動など、いいアイデアが出たと思うので、若い方々からのどういうアプローチだと見やすいか、伝わりやすいかという意見にヒントを得ていくことは重要。</p> <p>動画については、例えば子どもたちは自分たちと同年代の子どもが出て</p> |
|---------------|--|

| | |
|---|---|
| <p>進行・会長</p> <p>福祉保健部長</p> <p>事務局</p> <p>司会</p> | <p>いる動画しか見ないとのこと。動画にしても見てもらえる動画を調べていく必要がある。</p> <p>もう一つ素晴らしいなと思ったところが、高齢者が持っているスキルを若い人が知りたいというニーズがあるということ。そういったニーズも市の取組の中に入れていけるとありがたい。</p> <p>進行を事務局へお返しします。</p> <p>○挨拶</p> <p>○補足</p> <p>○○委員からのご質問があった、3・1・2 弁当作品展について補足。</p> <p>昨年度までは小中高校生の応募作品を紙媒体で展示していた。スーパーでの3・1・2 弁当販売の終了に併せ、実施方法について見直すため、今年度の事業は取りやめた。</p> <p>教育委員会と検討し、こどもの体験を促すにはお弁当作りに挑戦することが一番ではないかと意見をもらった。そこで、現在、小中学生には一人一台タブレットが支給されており、資料作りなどに慣れている。学習過程とも連動させ、3・1・2 弁当作りのポイントやできあがり写真をスライド資料として作成し公共の場で上映することを検討している。まだ、検討段階のため、今後、関係課と相談しながら進めていくが、今後も、主食・主菜・副菜について理解し、知識を得られるような事業を考えていく。</p> <p>○閉会</p> |
| <p>9 会議資料</p> | <p>資料1：第4次長岡市食育推進計画原案と修正案 比較一覧表</p> <p>資料2：各世代におけるめざす姿の変更点</p> <p>資料3：第4次長岡市食育推進計画 施策の体系</p> <p>冊子資料：第4次長岡市食育推進計画（案）</p> |